

吉野川に関する情報を幅広く発信する広報誌



Ourよしのがわ

Vol.48

2022年5月号

事務所だより

- 2022年度事業概要（河川版）
- 防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策等の工事進捗状況
- 出水期を前に洪水対応演習を行いました



連載

- コウノトリ・ツルでつながる阿波の国
- 吉野川歴史探訪：吉野川下流の内水対策について ～その2 飯尾川～
- 吉野川講座：～出水期はもうすぐ！適切な情報収集で水害に備えよう！～

吉野川に架かるJR土讃線鉄橋（東みよし町）



【連載】P1～

・コウノトリ・ツルでつながる阿波の国:

もり さ や か / 森 紗 綾 香 さん / 『菓匠孔雀』(案内図②)

・吉野川歴史探訪:吉野川下流の内水対策について～その2 飯尾川～

・吉野川講座:～出水期はもうすぐ!適切な情報収集で水害に備えよう!～



【事務所だより】P14～

・2022年度事業概要(河川版)

・防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策等の工事進捗状況(R4.3月末現在)

・出水期を前に洪水対応演習を行いました



【Twitterだより】P21

【ミニ情報発信室】P22



【吉野川Diary・編集後記】P23



案内図



表紙の写真:JR土讃線鉄橋(東みよし町)
(案内図①)



吉川
野

コウノトリ・ツルでつながる阿波の国

To the future with the stork and crane

国土交通省では、コウノトリやツルの生息環境の整備とともに、そこに生きる人々がいきいきと暮らせる地域づくりに取り組んでいます。このコーナーでは、地域に輝く人々をご紹介します。今回の輝く人は、徳島県環境アドバイザーの森 紗綾香さん、そして、「お菓子作りを通じて鳴門市を元気に」と奔走する菓匠孔雀を訪ねました。

SDGsに貢献する『とくしまコウノトリ基金』の活動と鳴門市を盛り上げる和菓子



徳島県環境アドバイザー 森 紗綾香さん

徳島県では、平成14年度からさまざまな環境に関する専門家『環境アドバイザー』を県民が主催する会合等へ派遣する制度を設けています。徳島県環境アドバイザーの森 紗綾香さんは、水環境やSDGs等を専門としています。

徳島市の郊外で生まれ育ち、田んぼや川、裏山を駆け回って過ごした幼少期の原風景が、森さんを環境の専門家へと向かわせるきっかけとなりました。大阪の大学へ進学し、生命科学科で広く生物学を学びました。卒業後は、フィールドで環境再生に関わりたいと徳島大学に進学。生態系工学を学び、博士号を取得しました。

コウノトリをはじめとする希少動物の保護と

豊かな自然を活かした地域農業や地域経済の活性化を目的に活動している『とくしまコウノトリ基金』（vol.37で紹介）の協力会員でもあり、同基金内のボランティアチーム『クレイドル』の一員として、ビオトープの草刈りや整備、水生動物を増やす活動など、さまざまな活動に取り組んできました。

そんな森さんに『とくしまコウノトリ基金』の『農業や経済活動の活性化』に関わる多くの取り組みが、国連が提唱している持続可能な開発目標SDGsの17項目のうち、どの目標の達成に貢献しているのか、お話を伺いました。

持続可能な開発目標の達成を目指して

最近よく聞くSDGs(Sustainable Development Goals)とは、持続可能な開発目標のことです。(下記参照)

『とくしまコウノトリ基金』は、その活動を通じて、国連が提唱しているSDGsの達成を目指し、活動しています。SDGsを専門とする森さんは、昨年12月18日『クレイドル』のメンバーが生物多様性への関心や理解を深めるために、定期的に行っている勉強会『ストークの会』で、これまで取り組んできた活動がどのようにSDGsの17の目標の達成につながっているかについて講演しました。

一例をあげると、ビオトープづくりは、SDGs:目標15(陸の豊かさを守ろう)に貢献しています。コウノトリが鳴門を営巣地として選んでくれたのは、この地域に陸の豊かさがあり、餌

となる水辺の生き物がたくさんいたからです。草が繁茂していた休耕田を整備しビオトープにしたことで、景観が改善し、防犯性も向上すれば、SDGs:目標11(住み続けられるまちづくりを)に貢献し、そこに、地域の人や子どもたちがやってきて、生き物の観察や地域について学んでいることは、SDGs:目標4(質の高い教育をみんなに)に貢献しています。このようにコウノトリ定着のためのビオトープづくりから派生して、17の目標の複数に貢献していることが分かります。

また、自転車ツアーなども、地域の方とふれあい、普段車で走らない場所を走り、まちの魅力を感じられる良い機会となり、これも地域活性化やまちづくりに役立っています。



『ストークの会』で講演する森さん



ビオトープ作りのための草刈り

持続可能な開発目標とは

2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際社会共通の17の目標です。地球上の「誰一人取り残さない(leave no one behind)」ことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル(普遍的)なものであり、日本としても積極的に取り組んでいます。



良い環境を未来へつなぐ

今では、その地道な活動により、『とくしまコウノトリ基金』のことも少しずつ人々に認知されるようになってきましたが、「コウノトリの保護活動をしているところですね」と言われることも多いそうです。

「それだけではなく、地域が元気になればと、様々なチャレンジをしていることも知らせていくことが大切です。そうすることで、地域住民の方に自分たちの暮らしと関わりのあることをやっているんだなと感じてもらえます。そのキックオフとして、この講演を行いました」と森さんは話してくれました。地域の事業者や学校等とパートナーシップを組みながら、普段から行っている環境整備や、環境教育・普及啓発などの『農業や経済活動の活性化のためのさまざまな活動』が、SDGs達成に貢献していることを知り、『ストークの会』の皆さんも、自分たちの活動の価値を再認識していたようです。「地域全体の取り組みとして、会の存在意義を住民の皆さんにどう伝えていくか発信の工夫も大切ですね」と森さんは話してくれました。

今後、森さんが、さらに深く関わりを持っていくという『とくしまコウノトリ基金』の活動について「メンバーの皆さんが地域を元気にしようとして、生き生きと活動している姿を見て、より深く活動に関わりたいと考えるようになりました。私自身学ぶことも多く、私の経験がお役にたてば」と決意を新たにしていました。

野山を走り回った子ども時代、フィールド調査や水質改善施設的设计、地域住民と交流した大学時代、昔も今も、身近な環境を守り、修復することで良い環境を未来へつないでいきたい。それが信念の柱だと森さんは言います。『とくしまコウノトリ基金』での今後の活躍が楽しみです。



コウノトリの餌生物を増やすためシュロの皮を用いた人工産卵床の設置活動



レンコン田でのトンボ観察会



コウノトリ自転車ツアー

特定非営利活動法人とくしまコウノトリ基金

〒771-0203

徳島県板野郡北島町中村字岸ノ上1-288

TEL.090-2825-6721

写真提供:とくしまコウノトリ基金



「地域を盛り上げられるようなお菓子を」 菓匠孔雀

「鳴門市をお菓子で盛り上げたいという思いが強いです。うちはお土産屋さんや、鳴門市に喜んでもらえるようなお菓子が多いかもしれないです」と話してくれたのが鳴門市撫養町にある『菓匠孔雀』です。

名前の由来は、お菓子屋さんといえば『堂』や『幸』といった文字が屋号として使用されることが多かった創業当時に、あえて他にはない名前をつけ、いざというときに美しい羽を広げる『孔雀』のようにお菓子作りをしていきたいという思いから名付けられたそうです。

「厳選された最高の原料を使い、風味豊かな鳴門市の伝統の味わいを届けたい」をモットーに店内には、鳴門産のわかめを使ったわかめあん最中『若布の香り』や、大谷焼の登り窯や渦潮をイメージした和菓子、鳴門金時芋や、れんこんを使ったクッキーなど、鳴門愛にあふれた商品が並んでいます。

また、黄色い箱に入った鳴門金時そっくりの焼き菓子『銘菓なると金時』と聞けば、徳島県内の主要なお土産屋さんやホテルで見かけたことがある方も多いのではないのでしょうか。実はこれこそ『菓匠孔雀』が鳴門市を盛り上げるために考えた代表的なお菓子なのです。

大鳴門橋が開通した頃に「これから県外からのお客様が鳴門市に多く訪れることが予想されるので、鳴門市を代表する銘菓を作ってほしい」という依頼が関係者からありました。そこで、前社長が鳴門市の菓子組合のみんなで作って盛り上げていこうと生み出された商品が『銘菓なると金時』です。組合員の統一メーカーとして販売され、現在は3軒ほどの菓子店で作られており、『菓匠孔雀』では『元祖銘菓なると金時』として白あんを入れず、鳴門市の名産さつま芋100%の商品を作っています。お客様の声を



昭和34年に和菓子だけでなく当時珍しかったケーキも扱うお菓子屋さんとしてスタートしました。その後、喫茶店もしながらお菓子販売を行ってきましたが、お土産や進物用の和菓子屋さんにしフトをして今の『菓匠孔雀』になりました。



創業当時から販売しているわかめあん最中『若布の香り』

徳島県を代表する陶器大谷焼をイメージした『大谷焼登り窯』



『菓匠孔雀』が手がける『元祖銘菓なると金時』全国菓子大博覧会で厚生労働大臣賞を受賞しています。

「他にないものを作る！」新商品で鳴門市をPR

聞いて改良を重ね、次第にさつま芋を含む量が増えていったそうで、ホクホクした焼き芋のような素朴な風味と、ほのかな黒糖の香りがする生地が自慢の商品は、県外に出かける人だけでなく、県外から来る人のお土産としても一番売れています。

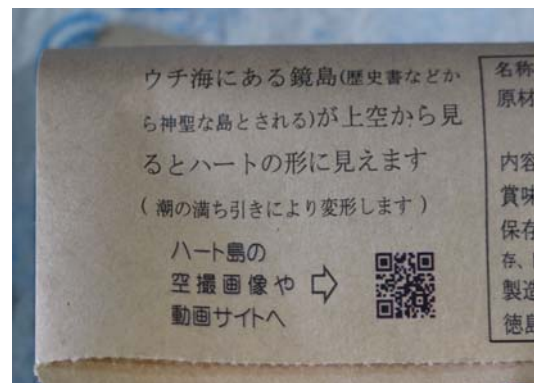
そして、2021年12月から販売を始めた新商品が『Heart island』というかわいいハートの形をした阿波三盆糖です。きっかけは、鳴門市ウチノ海にある無人島『鏡島』を上空から見ると、ハートの形をしているというニュースです。ドローンで撮影された写真を見てきれいだと感じ、鳴門市が観光の目玉にしたいと考えていることも知り、「ハート型の島にちなんだお菓子を作って鳴門市を盛り上げたい」と思ったことからでした。大鳴門橋をデザインしたものや、ベートーヴェンの『第九』アジア初演の地にちなんだ音符形の阿波三盆糖は商品としてすでにあつたので、これにハートの形を加えた商品のイメージがすぐに完成しました。

一日も早く商品化したいと、『鏡島』を撮影した鳴門市在住の写真家 小川直樹^{なおき}氏に商品への想いを伝えたところ快諾をいただき、約2ヶ月という早さで販売を開始させました。パッケージのイラストは写真を参考に『菓匠孔雀』で作成したオリジナルで、和三盆糖のイメージとは異なるパッケージデザインでハート島を知ってもらい、印象に残るように心がけたそうです。さらに、お客様にこのかわいい島を見てもらえれば、少しでも地域を盛り上げることに繋がるのではないかと、空撮画像や動画が見られるサイトへの案内を表示することを思いつきました。

「地域を盛り上げないと人も来てくれない。通過点ではなく、鳴門市に滞在してほしい」という強い想いと、「他にないものを作る」という創業当時のコンセプトで鳴門市を盛り上げるお菓子作りがこれからも続きます。



阿波三盆糖『Heart island』鳴門市うすしお観光協会などでも販売されています。



パッケージ裏面にはハート島サイトへの案内が印刷されています。

吉野川歴史探訪 吉野川下流の内水対策について

～その2 飯尾川河川改修のはじまり～

こんにちは。別宮川三郎です。まもなく出水期を迎えるにあたり、四国地方整備局の事務所では、洪水対応演習、重要水防箇所の手点検、排水ポンプ車の操作訓練、水防技術講習会などの取り組みが進められています。これらの取り組みは、洪水や水害に対して迅速かつ確実に対応するために欠かせない必要な準備となります。緊張感をもって取り組みたいと思います。

さて、前回より吉野川下流の内水対策について探訪しています。前は、吉野川市を流れる桑村川・学島川について探訪しましたが、今回は、明治末期から昭和初期に行われた堤防整備により、徳島県下最大の内水河川となった飯尾川における河川改修のはじまりについて、探訪したいと思います。

1. 徳島県下最大の内水河川、飯尾川

飯尾川は、吉野川市鴨島町の樋山地に源を発し、北流して平地に達した後、流路を東に向け平地を緩やかに蛇行しながら徳島平野の南縁に沿って、途中三谷川、寺谷川、渡内川、逆瀬川等の支川を合わせ鮎喰川に合流する幹川流路延長 25.8km、流域面積 71.2km² の一級河川です。(図 1)

その流域は、徳島県北東部に位置し、吉野川市川島町、同市鴨島町、名西郡石井町、徳島市西部に及んでいます。流域の地形は、流域の7割程度を占める平地のそのほとんどが吉野川の「氾濫原性低地」を主体とした沖積低地であり、流域南部は山地と丘陵地からなっています。(図 2)

飯尾川は、吉野川とほぼ並行に流れ、河床勾配は非常に緩やかで、流路のほとんどが低平地を緩流しています。そのため、吉野川の洪水の影響によって飯尾川の洪水が排水されない区間では、住宅地や道路の浸水を繰り返してきた、「県内最大の内水河川」なのです。

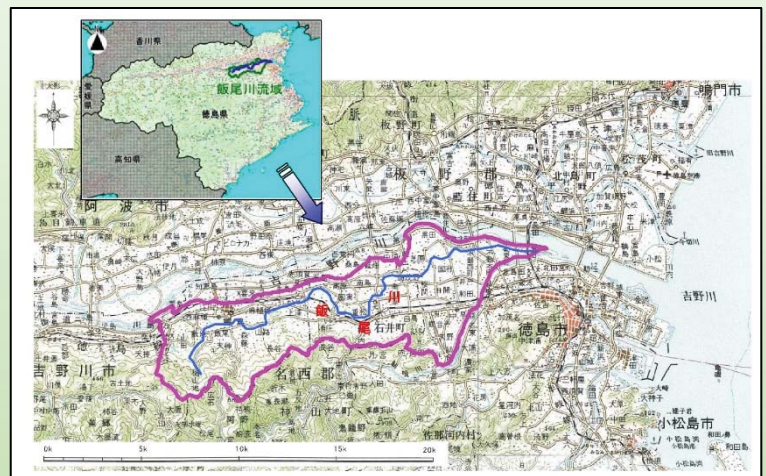


図 1. 飯尾川位置図

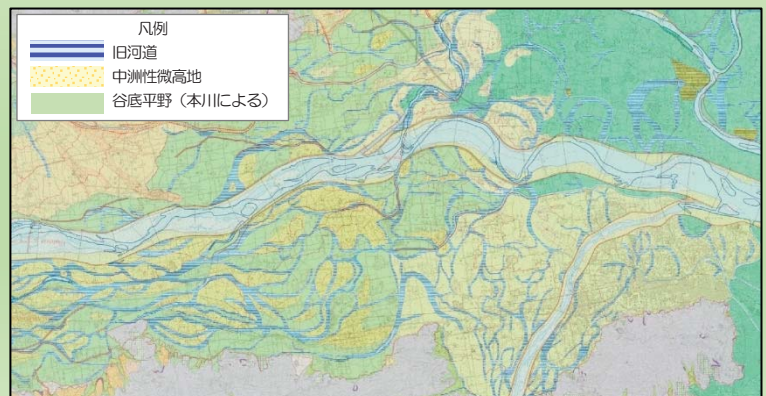


図 2. 吉野川流域水害地形分類図

2. 飯尾川における河川改修のはじまり

吉野川下流、徳島市以西の南岸地域の低地は、かつて、吉野川の洪水氾濫により一大湖水となる水害の常襲地でしたが、明治末期から昭和初期に行われた国による堤防整備（吉野川第一期改修事業）により、沿川町村の多くは、漸く本川からの浸水被害を免れることができました。飯尾川に関連する吉野川右岸堤防も、大正の初めの頃より築堤に着手していました。それまで飯尾川の河川改修は手つかずの状況でしたが、吉野川からの氾濫防止に目途が立ったことから、漸く飯尾川流域の調査、改修計画の検討など「飯尾川排水改良実査」が開始されたことが、大正2年の新聞記事で確認することができます。（資料1）



資料 1. 飯尾川排水改良実査の開始を伝える記事
（徳島毎日新聞 大正2年6月7日）

しかし、昭和に入っても工事着手には至りませんでした。現地を視察した関係者は、吉野川の堤防整備により、結果的に飯尾川の排水に影響が出ていることは事実であり、吉野川の合流点に建設された排水閘門（現在の飯尾川第一樋門）は、飯尾川の洪水排除には狭少の感があるので、何とかして鮎喰川へ排水することができれば、氾濫水の停滞緩和ができると考え、早期解決を望んでいたことが、当時の新聞記事に記されています。

このように、飯尾川沿川の低地では、吉野川堤防が完成した後も、本川の水位上昇に起因した支川氾濫（内水氾濫）に悩まされていましたが、昭和7年になり、徳島県内の中小河川ではいち早く、中小河川改修事業として着手することになりました。

3. 飯尾川第一期改修

(1) 新川を開削し合流点を鮎喰川へ延伸、下流 8.6km を改修

第一期改修前の飯尾川は、吉野川南岸の氾濫域を蛇行貫流する緩流河川で、高崎村付近の吉野川へ合流していました。飯尾川は、かつての吉野川本流であった古い河道であり、流路の殆どが平地であるため、古くから洪水時には氾濫を繰り返し、人家、農作物に多大な被害を与えてきました。

昭和7年から始まった飯尾川第一期改修では、従来、飯尾川の洪水は吉野川第一期改修工事で設置された第1樋門だけで吉野川に排水されていたのを、約1.7km下流の浜高房まで新川を開削(写真1)し、第2樋門(写真2)を設けて鮎喰川に合流させたのです。



写真 1. 飯尾川第 1 樋門下流の新川開削河道



写真 2. 旧飯尾川第 2 樋門
(平成 23 年に改築)

また、第 2 樋門から上流、石井町高川原までの 8.6km 区間は、計画流量 500 個 (139m³/s) が流れるように新河道は 3~4 倍に広げられました。また、改修区間のうち高川原村加茂野から南井上村の西端に至る区間は、川の流れが屈曲(写真 3)していたことから、低湿地に新川を開削し、ショートカットを行いました。(図 3)



写真 3. 屈曲し狭隘な旧河道

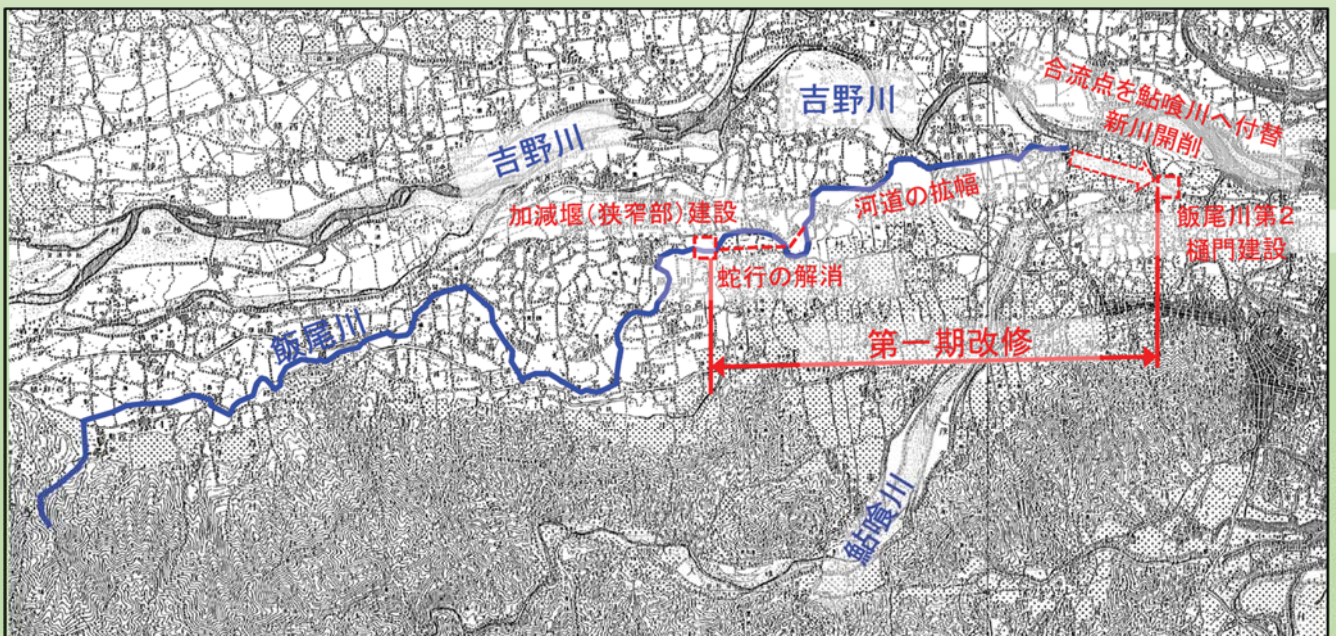


図 3. 改修前の飯尾川河道と第一期改修内容 (明治 29 年地形図に筆者追記)



(2)人工狭窄部「加減堰」の誕生

飯尾川改修工事は、県の担当者が竹やりをもった下流の住民に追いかけるという緊迫したものであったと伝えられています。それは、飯尾川の河道を広げると上流にたまっていた水が下流に急激に流れて洪水の恐れがあるという下流住民の強い反対のためでした。

工事の進捗に伴い、下流新居村では水害が吉野川第一期改修前よりも増加したことや、南井上村では上流改修(飯尾川改修第4工事)は、上流の氾濫水が直流し下流一帯で氾濫するため工事への反対陳情を行ったことが、昭和10年の徳島毎日新聞に記されています。このように、上下流対立を招くものとなったため、やむなく高川原村渡内川合流点の直下流の川幅を人工的に狭くし、下流に流れる水の量を調整(加減)するための狭窄水路である加減堰(写真4)を造りました。加減堰は全長100mに渡り護岸や河床に青石を張ったものでした。

この加減堰は、下流の洪水負担を少なくする反面、上流からの水の流れを阻害したことにより上流は大雨毎にあふれることになり、飯尾川の上下流問題の象徴として、後に飯尾川最大の懸案となったのでした。



▲写真 4-1
加減堰で狭窄している飯尾川



▶写真 4-2
加減堰下流端(平成24年)

飯尾川第1期改修事業は、昭和7年～昭和11年の約5年、事業費は約88百万円で完了しました。しかし、その後、20年余り、加減堰から上流は見るべき改修は行われず、関係住民は洪水の度に水害を受けていました。次回は昭和30年代半ばから再開された河川改修や加減堰のその後について探訪しましょう。



吉野川講座

～出水期はもうすぐ！適切な情報収集で水害に備えよう！～



近年、雨の降り方が局地化・集中化・激甚化し、平成30年7月豪雨、令和元年10月東日本台風、令和2年7月豪雨など毎年のように大水害が発生し、甚大な被害をもたらしています。「もしも、私たちの住む地域が豪雨に見舞われたら・・・」なんて考えたくない事ですが、いざという時に命を守るためには、事前の備えと心構えが不可欠です。

今回の吉野川講座では、本格的な出水期を前に、防災に役立つ情報についてご紹介します。今からできることを一緒に考えていきましょう！



▲写真1. 平成30年7月豪雨による浸水被害（肱川流域 愛媛県西大洲地域）

まずはチェックしてみよう！

- 1. 指定緊急避難場所や避難場所がどこにあるか知っている
- 2. 大雨で自宅周辺がどれくらい浸水する恐れがあるか知っている
- 3. 洪水ハザードマップを知っている
- 4. いざという時にどこに避難するか決めている
- 5. 災害情報を収集する手段を複数知っている



雨や風の場合は、事前に予測できるので、あらかじめ備えることができます。いざという時に落ち着いて行動するためにも、まずは上記の内容について確認していきましょう。

①洪水ハザードマップを活用しよう

洪水ハザードマップは、洪水浸水想定区域図をもとに、どこがどれくらい浸水する恐れがあるか、避難所や緊急避難場所、要配慮者利用施設がどこにあるのかなどを記載したもので、市町村が作成しホームページなどで公表しています。



洪水ハザードマップには、前ページのチェック項目2、3に関する情報も載っています。お住いの地域の洪水ハザードマップの内容をしっかりと確認しておくことが、安全な避難への第一歩です！



洪水ハザードマップによってわかること

避難所がどこにあるかわかります！

色分けによって、どの深さまで水に浸かってしまうかわかります！

!! わたしの家は2階の天井まで水に浸っちゃうんだ！ 気をつけないと...!!

想定される浸水深

5m以上	3-5m	0.5-3m	0-0.5m
------	------	--------	--------

※洪水だけでなく、津波や土砂災害など、さまざまな自然災害に対するハザードマップが作られています。



洪水ハザードマップを見ながら、指定緊急避難場所等、避難する予定の場所まで歩いてみるのもいいですね！実際に歩いたルートや、途中でどんな危険な場所があるのかなど、気づいたことをメモしておく、より安心ですね。



②避難に必要な情報について考えよう

「この後どれくらいの雨が降りそう」「〇〇川があふれそう」など、災害発生時には様々な情報が発信されています。命を守るために必要な情報を適切に収集して安全に避難するためには、どのような情報が必要か、その情報をどこから収集するかなどあらかじめ確認しておきましょう。

☁️ 気象や吉野川の災害情報収集に役立つウェブサイト

国土交通省 「川の防災情報」	全国の川の水位や洪水予警報、レーダー雨量、河川カメラ画像などをリアルタイムで提供しています。	https://www.river.go.jp/	
気象庁 「キキクル」	リアルタイムで大雨による災害発生危険度を確認できるサービスで、災害が起こる危険度をマップ上の「色」で確認できます。	キキクル <input type="button" value="検索"/>	
水資源機構 池田総合管理所	吉野川上流ダム群の貯水率や放流量などの情報を提供しています。	https://www.ikesou.jp/	

新しくなった避難情報「警戒レベル4 避難指示」で必ず避難！

災害時に発令される避難に関する情報が令和3年5月20日より変更になり、「避難勧告」は廃止され、「警戒レベル4 避難指示」となりました。

令和3年5月20日から
ひなんしじ
4 避難指示で必ず避難
避難勧告は廃止です

警戒レベル	新たな避難情報等	これまでの避難情報等
5	緊急安全確保※1	災害発生情報 (発生を確認したときに発令)
4	避難指示※2	・避難指示(緊急) ・避難勧告
3	高齢者等避難※3	避難準備・ 高齢者等避難開始
2	大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁)	大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁)
1	早期注意情報 (気象庁)	早期注意情報 (気象庁)

内閣府(防災担当)・消防庁

▲画像 内閣府「新たな避難情報に関するポスター・チラシ」より

警戒レベル	新たな避難情報等	これまでの避難情報等
5	緊急安全確保※1	災害発生情報 (発生を確認したときに発令)
4	避難指示※2	・避難指示(緊急) ・避難勧告
3	高齢者等避難※3	避難準備・ 高齢者等避難開始
2	大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁)	大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁)
1	早期注意情報 (気象庁)	早期注意情報 (気象庁)

警戒レベル4までに必ず避難！
市区町村が出す警戒レベル3又は、警戒レベル4で必ず避難しましょう。また、河川水位や雨の情報を参考に自主的に早めの避難をしましょう。



③過去の災害から学ぶ

自分の住んでいる地域の弱点が分かれば、災害に備えることができます。過去に起こった災害の記録は、その記憶を風化させないためだけでなく、防災にも役立つ貴重な情報源なのです。

徳島河川国道事務所では、「Our よしのがわ」や「吉野川防災パネル展」(P22 に関連記事)で、過去の洪水や土砂災害に関する記録、治水への取組などを発信し、住民の皆様の意識向上に努めています。また、ウェブページでは吉野川に関する過去の洪水の歴史を紹介しています。



▲写真2 令和3年防災パネル展の様子 (吉野川市鴨島公民館)

▶ 昭和三十六年(1961)九月の洪水(第二室戸台風)
場所: 宮川内谷川、熊谷川、飯尾川、桑村川、字島川

＜川島の内水＞

室戸岬西方に上陸し、徳島市南岸を通り阪神地域に上陸して富士県に抜けた台風。吉野川上流で総雨量600～700ミリに達する大雨となり、岩津の最大流量は毎秒11,960立方メートルであった。宮川内谷(みやごうちたに)川、熊谷(くまたに)川など支川(しせん)が各地で破壊したほか、飯尾(いのお)川、桑村(くわむら)川、字島(がくしま)川などで内水被害が流出した。また河口での高潮とあいまって、この洪水による被害は浸水面積6,638ヘクタール、床上浸水15,408戸、床下浸水9,702戸と大きなものであった。

▲写真3 徳島河川国道事務所ウェブページ「洪水の歴史 吉野川～歴史の扉～」より

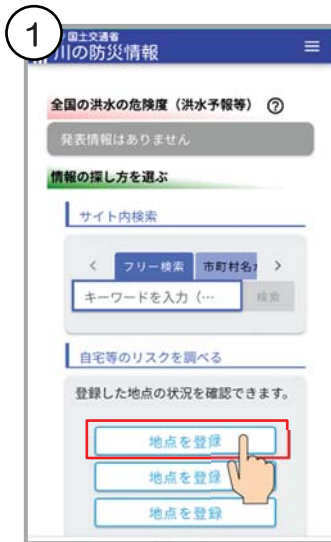
徳島河川国道事務所ウェブページ「洪水の歴史 吉野川～歴史の扉～」
<http://www.skr.mlit.go.jp/tokushima/river/profile/rekishi/tobira/kouzui/kouzui.html>

「川の防災情報」に、自宅を登録してみよう！

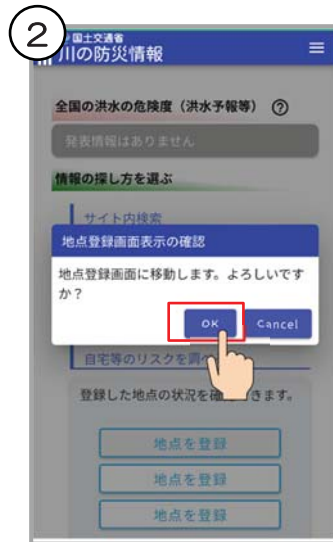
「川の防災情報」は、全国の川の水位や洪水予報、レーダー雨量、河川カメラ画像などをリアルタイムで提供しています。自宅や職場などの身近な場所を最大3カ所登録でき、大雨の時に必要となる川の情報や水災害のリスクを確認することができるので、事前に自宅などを登録しておきましょう。

地点の登録方法

※この手順は「Ourよしのがわ」編集委員が操作しまとめたものです。



「川の防災情報」サイトを開き、「地点を登録」をタップします。



表示されたメッセージの「OK」をタップします。



地図を拡大、移動などして登録したい場所を表示します。

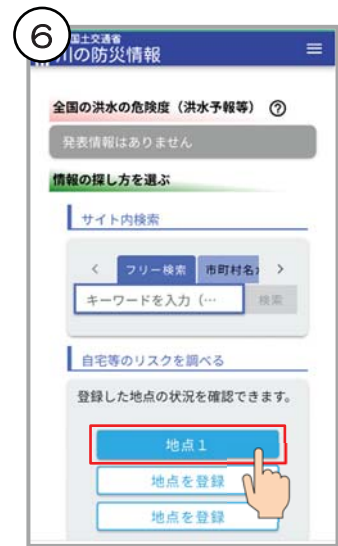


地図上で登録したい場所をタップし、表示された画面の「登録」をタップします。



「地点を登録しました」メッセージが表示されたら登録完了です。

「判定実行」「キャンセル」はどちらを選んでも大丈夫です。

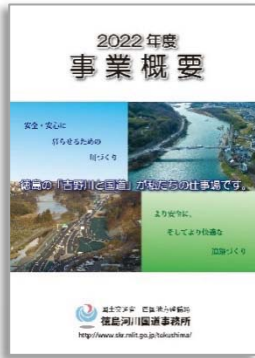


「川の防災情報」トップページから登録した地点のボタンをタップすると、登録した地点の情報をすぐに見ることができます。



安全な場所へ避難するスピードは人それぞれです。自分に合うタイミングで判断ができるように、避難に役立つ情報を知っておくことが大切です。「逃げ遅れゼロの社会へ！」私たちが今できることから始めましょう。

2022年度事業概要（河川編）



2022年事業概要の全体は、徳島河川国道事務所ウェブページ、または事務所で配付している冊子でご覧いただけます。



徳島河川国道事務所
2022年事業概要ページ



◎築堤事業



▲加茂第二箇所【東みよし町加茂地先】

洪水のたびに浸水被害が発生している吉野川の無堤地区において、早期に洪水防御を図るべく、築堤事業を計画的に実施します。

2022年度は、加茂第二箇所（東みよし町）、半田箇所（つるぎ町）、沼田箇所（美馬市）の築堤事業を行います。



▲広島箇所【松茂町地先】

氾濫域に資産が集中している旧吉野川流域において、早期に洪水防御を図るべく、築堤事業を計画的に実施します。

また、中喜来・広島地区では、防災まちづくり一体型築堤事業として、町と連携して築堤事業を実施します。

2022年度は、中喜来箇所（松茂町）、広島箇所（松茂町）、新喜来箇所（鳴門市・北島町）、勝瑞箇所（北島町）の築堤事業を行います。

◎地震・津波対策事業



▲向喜来箇所【松茂町中喜来地先】

旧吉野川・今切川において、地震時に発生する堤防沈下を防ぐため、堤防の液状化対策を実施します。これにより、津波に対する被害を軽減します。
2022年度は、旧吉野川・今切川の堤防液状化対策を行います。



▲応神箇所【川内町鈴江南地先】

吉野川においては、地震発生による樋門の損傷を防ぐ事業として、榎瀬川樋門の改築を行います。（榎瀬川水門本体は、2022年上半期完成予定）

◎河道掘削・樹木伐採



▲沼田箇所【美馬市美馬町沼田島地先】

近年の災害を踏まえ実施した重要インフラの緊急点検に基づいて早期に地域の安全性の向上を図るべく、河道掘削および樹木伐採を計画的に実施します。
2022年度は、善入寺島周辺（阿波市・吉野川市）、沼田箇所（美馬市）において行います。

◎環境整備事業



▲大麻箇所イメージパース
（津慈地区）【大麻町・藍住町地先】

旧吉野川大麻箇所【津慈地区】（鳴門市・藍住町）において生物の多様な生息・生育環境を確保しつつ、自然環境の保全・復元を行う自然再生事業を実施します。

■2022年度 河川関係予算内訳

（単位：百万円）

分類	事業費	分類毎の説明	主な内容
河川改修事業 （都市基盤整備事業）	3,216	洪水や高潮による災害の発生を防止するため、築堤などを推進する費用です。	加茂第二箇所 築堤 榎瀬川樋門改築 等
環境整備事業 （自然再生事業）	91	自然環境の保全・復元を必要とする区域について、湿地再生等を行うための費用です。	大麻箇所（津慈地区） 用地取得等
河川工作物関連 応急対策事業費	170	技術基準や周辺の治水機能等に合わせた施設の改良、老朽化した施設の改良を実施する費用です。	正法寺排水機場
河川維持 修繕費	5,109※	堤防の除草、塵芥処理や樋門等河川管理施設の定期整備及び修繕を実施する費用です。また、河川の適正な利用並びに出水時の事故を未然に防ぐための河川巡視等も実施します。	吉野川・旧吉野川・ 今切川の維持修繕

※河川維持修繕費は、四国全体の総額です。
※上記事業費は工事諸費を除いたものです。

国土強靱化

NATIONAL RESILIENCE

強くて、しなやかなニッポンへ

防災・減災、国土強靱化のための
5か年加速化対策等の工事進捗状況

～吉野川水系吉野川～

吉野川水系における防災・減災、国土強靱化の緊急対策

吉野川水系を管轄する徳島河川国道事務所においては、時々の自然災害等の状況に即した機動的・弾力的な対応を行うための「頻発する風水害への対応」や「切迫する大規模地震等への対応」として「5か年加速化対策」等の工事を以下の地区で進めています。

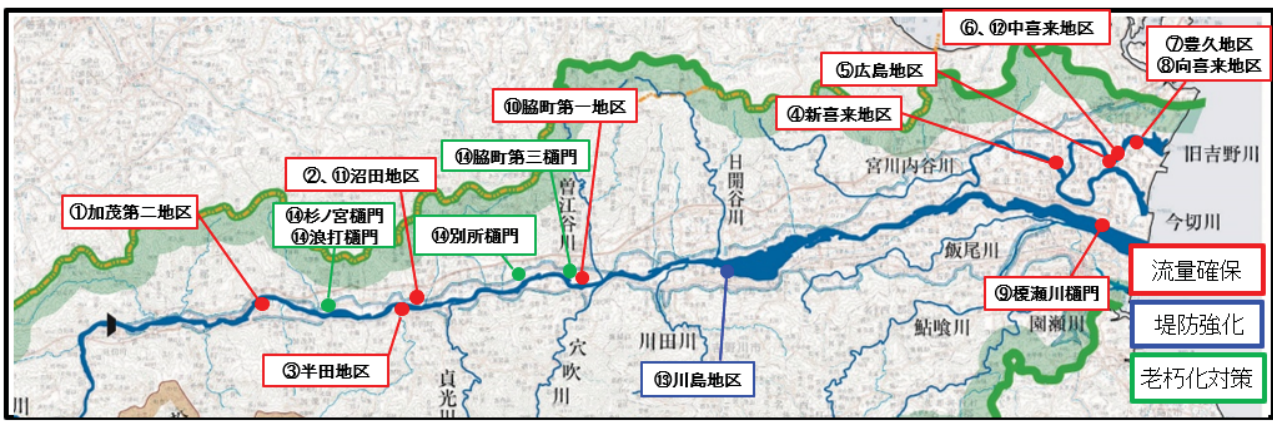


図1.吉野川水系における防災・減災、国土強靱化の緊急対策地区（※現時点で事業着手している箇所を表示）

事業目標及び状況（令和4年3月末現在）

■流量確保（堤防整備、地震・津波対策、樋門新設・改築、河道掘削、樹木伐採）

- ①堤防整備
 - ・対策必要箇所22箇所のうち、令和7年度までに14箇所着手（予定）
 - ・3月末時点で7箇所着手し、現地調査、用地買収、築堤工事、樋門工事を実施中（この内、勝命箇所ですり完了）
- ②地震・津波対策
 - ・対策必要箇所4箇所（旧吉野川河口堰下流）のうち、6月末時点で全箇所着手し、耐震対策工事を実施中
 - ・12月末で中瀬地区、1月末で矢倉地区が工事完了。
- ③樋門新設・改築（耐震）
 - ・対策必要箇所5箇所のうち、令和7年度までに4箇所着手（予定）
 - ・3月末時点で1箇所着手し、榎瀬川樋門では仮設撤去工を実施中
- ④河道掘削
 - ・対策必要箇所10箇所のうち、令和7年度までに3箇所着手
 - ・3月末時点では、脇町第一地区、沼田地区、中喜来地区で河道掘削工事を実施中
※掘削範囲の樹木伐採も含む

■堤防強化（堤防拡幅、漏水・侵食対策、粘り強い堤防策）

- ①漏水対策
 - ・対策必要箇所2箇所（川島地区、西林地区）で漏水対策工事完了
- ②侵食対策
 - ・対策必要箇所5箇所のうち、令和7年度までに1箇所着手
 - ・3月末時点では、川島地区で侵食対策（河道掘削）工事を実施中

■老朽化対策

- ①無動力化
 - ・対策実施箇所8箇所のうち、4箇所完了済み、3月末時点では残り4箇所を施工中（工事完了：書院谷樋門・大楠樋門・喜来樋門・孫十郎谷樋門）
（施工中：脇町第三樋門・別所樋門・杉ノ宮樋門・浪打樋門）

吉野川水系における工事進捗状況



前ページで紹介した対象地区のうち、令和4年3月末時点での主な地区の進捗状況は以下の通りです。（丸数字の番号は、図1（P●）の番号に対応）

 流量確保
 堤防強化
 老朽化対策

●主な地区の施工状況（令和4年3月末時点）

No	地区名	所在地	整備内容	事業進捗
①	加茂第二地区	東みよし町	堤防整備	工事実施中（事業延長約4.6kmのうち約50%進捗）
⑥	中喜来地区	松茂町	堤防整備	工事実施中（事業延長約1.5kmのうち約14%進捗）
⑦	豊久地区	鳴門市、松茂町	地震・津波対策	工事完了
⑪	沼田地区	美馬市	河道掘削	工事実施中（全体掘削量約728千m ³ のうち約17%進捗）
⑬	川島地区	吉野川市	侵食対策	工事実施中（事業延長約1.0kmのうち約27%進捗）
⑭	樋門無動力化	三好市、美馬市	老朽化対策	工事実施中（実施箇所8箇所のうち4箇所完了、4箇所施行中）

≫堤防が出来るまで



≫地震・津波対策が出来るまで



▶堤防整備の進捗状況

①加茂第二地区：用地買収、築堤、樋門工事／約50%の進捗



R3.6月末時点



R4.3月末時点

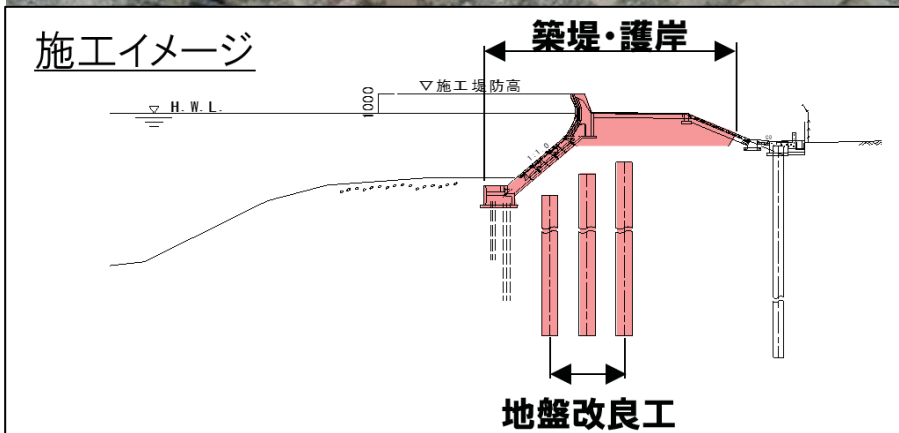
⑥中喜来地区：築堤工事／約14%の進捗



着手前



R4.2 月末時点



⑦豊久地区：耐震対策工事／堤防完成



着手前



R4.1 月末時点

▶河道掘削工事の進捗状況

⑪沼田地区：河道掘削工事／約 17%の進捗



着手前



R4.3 月末時点

▶漏水対策の進捗状況

⑫川島地区：侵食対策（河道掘削）工事／約 27%の進捗



着手前



R4.3 月末時点

▶老朽化対策の進捗状況

⑬浪打樋門：樋門の無動力化工事／**施行中**



着手前



R4.3 月末時点



「Our よしのがわ」では、今後も定期的に国土強靱化に関する吉野川水系の工事進捗状況を発信していく予定です。また、徳島河川国道事務所のウェブページでは、全箇所を進捗状況を毎月更新しています。詳細はこちらをご覧くださいことができます。

徳島河川国道事務所ウェブページ

防災・減災国土強靱化のための5か年加速化対策等の工事進捗状況

<http://www.skr.mlit.go.jp/tokushima/yoshinoriver/kokudokyoujinka/kokudo.html>





「もしも」に
備える!

出水期を前に 洪水対応演習を行いました!

徳島河川国道事務所では4月26日（火）に「洪水対応演習」を実施しました。この演習は、洪水時に必要な対応が確実に実施できるよう、関係機関と連携して毎年実施しているものです。

演習は、『台風による大雨で河川が増水し、吉野川上流・旧吉野川の複数個所で複数氾濫が発生した』という想定のもと、関係機関への洪水予報、水防警報等の情報伝達の演習や、的確な避難判断・行動につながるよう、自治体への情報提供の演習等を行いました。

令和4年度 洪水対応演習の実施状況



今後の水位を予測し、関係機関へ
様々な情報伝達を行います



各地の被害等の情報を
地図に書き込み、状況を整理します



現場の状況は、CCTVカメラや
現場に向かった職員とWeb会議ツールで
つないでリアルタイムで確認します



発信する情報の内容を
入念にチェックします

起こる被害を想定している今回の演習とは違い、本番は我々が思いもつかないような状況がいくつも起こります。我々は、それに臨機応変に対応しなければいけません。今回の演習で、各自が何をすべきなのかを再確認し、これからの出水期、事務所一丸となって対応していきたいと思っております。



国道・吉野川・旧吉野川・今切川に関する災害情報は
徳島河川国道事務所の Twitter でチェックできます。



徳島河川国道事務所の公式 Twitter では、所管する国道11号、28号、32号、55号、55号バイパス、55号日和佐道路、192号、192号バイパス道路や吉野川・旧吉野川・今切川に係る情報等を発信しています。

いざという時に備えて、ぜひフォローしてくださいね!

普段は楽しい話題も発信しています



徳島河川国道事務所公式 Twitter
https://twitter.com/mlit_tokushima



吉野川防災パネル展を開催します

「水防月間」(5月1日～5月31日)及び「土砂災害防止月間」(6月1日～6月30日)における防災活動の一環として、国土交通省徳島河川国道事務所では、「吉野川防災パネル展」を開催しています。

このパネル展は、徳島県内の国土交通省の事務所や徳島県の協力を得て、下記施設で行います。

※本施策は、四国圏広域地方計画の広域プロジェクト【No.1 南海トラフ地震を始めとする大規模自然災害等への「支国」防災力向上プロジェクト】に該当します。



開催場所	開催期間
徳島県立防災センター (板野郡北島町鯛浜字大西165)	5月10日(火)～5月29日(日) ※休館日：毎週月曜日
道の駅貞光ゆうゆう館 (美馬郡つるぎ町貞光字大須賀11-1)	5月16日(月)～5月30日(月) ※搬入出日含む
フジグラン石井 (名西郡石井町高川原字天神544番地1)	6月6日(月)～6月13日(月) ※搬入出日含む
鴨島公民館 (吉野川市鴨島町鴨島甲1)	6月20日(月)～6月27日(月) ※搬入出日含む、休館日：毎週火曜日

※上記予定は4月28日現在のものです。



コウノトリパネル展を開催しました

ゴールデンウィーク期間中の4月28日(木)～5月8日(月)、徳島市「とくしま動物園北島建設の森」で、コウノトリパネル展が開催されました。(展示は終了しています)

2015年に初飛来して以降、鳴門板東ペアとして親しまれているコウノトリ。4月には6年連続となるひなの誕生が確認されたという、嬉しいニュースもありました。

NPOとくしまコウノトリ基金では、令和2年から“地域住民の皆様に対し、コウノトリへの興味・関心を高め、守り生かす取組への理解を促すこと”を目的としたパネル展を徳島県内各地で実施していて、今年は2月の小松島「あいさい広場」に続き2回目の実施となります。



◀コウノトリの大きさを実感することができる等身大パネルも展示されました

▶5月5日には、はく製が展示され、多くの方々がはく製に触れ、コウノトリを身近に感じる機会になりました



※徳島県流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会も、パネルの貸出で協力しています



徳島のコウノトリの情報、取り組み等は、とくしまコウノトリ基金ウェブページでご覧いただけます。

とくしまコウノトリ基金
<https://www.t-stork.jp/>



吉野川 Diary

～「コウノトリ・ツルでつながる阿波の国」こぼれ話～

鳴門の魅力を伝える 「なると観光ボランティアガイド会」

四国の玄関口で観光地も多い鳴門市。2007年から鳴門市を訪れる観光客に案内をしているのが「なると観光ボランティアガイド会」です。現在の会員数は30名。鳴門市出身のメンバーは半数程度で、転勤族や鳴門に魅力を感じて移住してきた方々も研修を受けガイドになっています。

会長の野口^{まさひろ}さんは定年退職後、鳴門市に帰ってきて多くの魅力を伝えたいとガイドになりました。お客様の要望や年代などに合わせてシミュレーションを行い、最大限に満足してもらえるような内容にすることを心がけているそうです。それぞれのガイドが得意分野を活かした案内をしています。

鳴門市うずしお観光協会ウェブサイトでは様々な観光コースが紹介されていて、まち歩きが楽しめる「鳴門^{さとたひ}郷旅」には「お遍路とコウノトリ見学」というコースも設けられています。

各ツアーはすべて予約制で3日前までに電話、メール、FAXのいずれかでの申し込みとなります。お気に入りのコースを見つけて、ガイドと一緒に鳴門の魅力を感じてみませんか。

鳴門市うずしお観光協会のウェブサイト→



会長の野口^{まさひろ}さん「たかがガイド、されどガイド」と、自分の人生経験がガイドにも反映されると教えてくれました。



鳴門市高島にある国指定重要文化財「福永家住宅」を案内している様子。国内で現存する唯一の製塩関連施設です。

写真提供：鳴門市うずしお観光協会

編集後記

新緑が鮮やかな季節になりました。本格的な夏に向けてワクワクされている方も多いと思いますが、これからが本格的な出水期であることも忘れないでくださいね！そして、「吉野川講座」でご紹介した洪水ハザードマップや、情報収集手段の確認など、いざという時のためにできることから備えていきましょう。(宮)

[発行]: Ourよしのがわ 国土交通省四国地方整備局 徳島河川国道事務所

[編集]: Ourよしのがわ編集委員会

〒770-8554 徳島県徳島市上吉野町3-35

TEL(088)654-9175(直通)

FAX(088)654-9177

E-mail:skr-tokusa63@mlit.go.jp

ウェブページアドレス <http://www.skr.mlit.go.jp/tokushima/>

(注記)QRコードは、株式会社デンソーウェーブの登録商標です。



Ourよしのがわ 編集委員会

- ・白川 豪人
- ・藤本 雅信
- ・林 昌宏
- ・佐藤 英人
- ・藤井 和志
- ・大江 茂徳
- ・松本 幸一
- ・宮地 正彦
- ・七條 稔暢
- ・安永 一夫